

2024/10/27

説教題：イエスとともに歩むことは、心の聖さを歩むこと

おはようございます。O I Cの皆さん、そして父の家へようこそ。

今日も使徒ヨハネの第一の手紙の続きです。聖書全体がそうであるように、この手紙も聖霊の靈感を受けたものです。前回のメッセージ「イエスと共に歩むことは愛の内に歩むこと」で、私はこう締めくくりました：「ヨハネがこの手紙の中で書いているように、“私たちクリスチャンは、キリストのうちに、いつまでも自分のアイデンティティーを持っています。私たちは、時が始まる前からおられる救い主イエスの古さと、神の永遠の裁きから私たちを救ってくださったイエスの十字架、イエスの血の新しさをもって、毎日を始めることができるのです。そう、神は御子の血潮が私たちクリスチャンを清め、癒すためにいつでも用いられ、“改心の瞬間だけでなく、栄光への歩みにおいても用いられると見なしておられるのです。ヨハネは、キリストにあるあなたがたのアイデンティティーが永遠に続くものであることを、教会で覚えているようなギリシャ語の動詞の時制を使って強調していました。

I ヨハネ 2:14 子供たちよ、アイデンティティー書いているのは、あなたがたが御父を知っているからである。父たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが、初めから存在なさる方を知っているからである。若者たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが強く、神の言葉があなたがたの内にいつもあり、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからである。

次に使徒ヨハネは、クリスチャンが永遠に安心できる強い立場にあることを宣言した後、罪の力は規則や規定だけでなく、心から抵抗しなければならないことを教会に思い起こさせています。そこで私は、この説教のタイトルを「イエスと共に歩むとは、心の聖さを歩むことである」としました。

世を愛してはいけません

I ヨハネ 2:15～17

15 世も世にあるものも、愛してはいけません。世を愛する人がいれば、御父への愛はその人の内にありません。16 なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。17 世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。

ヨハネは、イエスの勝利という私たちの立場が、悪魔以上に私たち自身の心によって最も脅かされることを知っていた。ヨハネはギリシャ語で「愛」を意味する *agapao* アガパオと

いう言葉を用いています。これこそ、神が私たちを愛する方法なのです。老若男女を問わず、多くのクリスチャンに最も知られている聖書の箇所は、このような愛です。

ヨハネ 3:16

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

世を意味するギリシャ語の原語は *kosmos* コスモスです。この単語は、その文脈、つまり周りの言葉によって理解されなければいけません。ここでは、「世・世界」(*kosmos*) の文脈や配置は、「神はすべての罪深い人類を愛された」という意味です。ヨハネの手紙第一 2・15) のように、私たちの周りにある世界に誘惑されることは、それを愛すること (アガパオ) とは違うということをはっきりさせておきましょう。

I ヨハネ 2:15 世も世にあるものも、愛して (アガパオ) はいけません。世を愛する人がいれば、御父への愛はその人の内にありません。

ここで「この世」(コスモス) という言葉の文脈は、全人類に存在する罪深さを指しています。

人は常に、イエスを通して神を、あるいは罪を通してこの世の快樂を、愛するものを追い求めます。私たちの罪深い性質は、私たちをイエスから引き離すかもしれませんが、あなたが心と魂から愛をもって追い求めるものは、あなたをイエスに近づけるか、遠ざけるかのどちらかです。この世やこの世のものに対して強い献身や愛 (アガペー) を持っている人は、御父の愛 (アガペー) を持っていない人です。

I ヨハネ 2:16 なぜなら、すべて世にあるもの、肉の欲、目の欲、生活のおごりは、御父から出ないで、世から出るからです。

また、詳訳聖書ではこう書かれています。

(1 ヨハネ 2. 16/AMPC)、**「世にあるすべてのもの、すなわち、肉の欲[官能的な満足を切望すること]、目の欲[心の貪欲なあこがれ]、命の誇り[自分の資力や地上のものの安定を保証すること]は、父から出たものではなく、世[そのもの]から出たものである。」**

世俗の世界、つまり人類の現在の秩序です。もちろん、この世のすべてが「悪」というわけではありません。しかし、世界のシステムを動かしている権力者は神に逆らっています。**詩篇 24. 1** に書かれているように、聖書ではしばしば「地球」は神の創造物を表す言葉です。

詩編 24:1 地とそこに満ちるもの 世界とそこに住むものは、主のもの。

神の「世」に対する絶対的な主権は、イエスがご自分のものであることを主張するために

戻ってこられるまで、必ずしも明らかにはなりません。イエスを愛し、追い求め、世を愛することを拒むクリスチャンは、この世界における神の主権が（ローマ 8. 28）で約束されたとおりであることに気づくでしょう。

ローマ 8:28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

肉の欲望 - 聖書の言葉「欲望」は、あらゆる種類の「強い欲望」を表します。ルカ 22. 15) のように、良い欲望にも同じ言葉が使われます。

ルカ 22:15 イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。

これはイエスが使徒たちとの最後の晩餐で言われた言葉です。「この世で「何かを愛することは、」肉欲を満たすための抑制のきかない強い献身」とは違うのです。イエスが、御父が御自分とその友人たちに与えてくださった交わりとおいしい食事を望まれたことは確かです。聖書の多くの箇所、欲望という言葉は、罪である肉体的な行為に表出しようとする邪悪な欲望を指しています。ここ（第一ヨハネ 2. 16/AMPC）では、「官能的な満足を切望する」という意味で使用されています。

また、（ローマ 6. 12）にあるように、「従って、あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望に従うようなことがあってはなりません。罪の力には、規則や規定だけでなく、心から抵抗しなければならないと前述しました。」これは、*Vine's Expository Dictionary* (VED)の(1ヨハネ 2. 16)の説明「肉欲という言葉は、魂の感情、悪に向かう自然な傾向を表している」と似ています。

ブルース牧師、すべての欲望は悪ですか？ いいえ！これは単純化しすぎた質問ですが、聖書を手っ取り早く読むと、まじめなクリスチャンにこのような誤った印象を与えてしまいます。

例えば、先ほどのイエスの欲望がそうです。ヨハネは、神への愛と世への愛を対比している。

ヨハネ 37:4 には「主に自らをゆだねよ 主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」とあります。

これは、この手紙におけるヨハネの教えと一致している。クリスチャンがこの世の欲ではなく神を愛するようになると、彼らはイエスを喜ぶようになります。神はクリスチャンの心に、神との交わり、友人、家族、物質的な祝福など、多くの望みを与えてくださいます。そして目の欲望—私たちはエデンの園のエバと同じです。創世記 3. 6) には、人類の墮落について書かれています。

創世記 3:6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

私たちは、エバのように、目を「神」にして、「心の貪欲なあこがれ」に火をつけてしまうかもしれません。私たちは「エデンの園」にいるわけではないが、悪魔は私たちを誘惑するために、一本の木以外にも多くのものを持っています。今日の視覚的なもののテクノロジーは、心を当惑させ、しばしば電光石火で目を誘惑します。私の天気予報サイトにも、視覚的に誘惑する広告がたくさん送られてきます。私はしばしば google (グーグル) にこれらをブロックするように伝えなければいけません。「目の欲望」の多くは性的な誘惑ですが、親愛なる聖徒の皆さん、単にテクノロジーそのものを崇拜することも危険です。梅田駅にあるアップルの最新携帯電話の写真は、サッカー場の半分ほどの大きさに見えます！携帯電話は誰にとっても必要な道具です。しかし、1950年頃、マクローレンという専門家の有名な言葉をコミュニケーション論の本で読んだ記憶があります。「メディアはメッセージだ！」彼の同業者たちは彼を笑ったが...50年後、それは現実となりました。このテクノロジーの時代に、メディアの形式を内容よりも重要視する人がどれほど多いことでしょうか。主イエスが私たちを助けてくださいますように。

だから、すべての「目の強い欲望」が罪深い欲望というわけではありません。アダムが、神から初めてエバを贈られたときの言葉を思い出してください：「すごい！」異性の魅力は神からの賜物です。神は、独身クリスチャンが異性に肉体的魅力を感じることを恐れることを期待してはいません。しかし、神の御霊は心を探り、クリスチャンとしての結婚を神に願わなければなりません。単なるクリスチャンの友人としてのカジュアルな関係もあります。聖書はまた、神が性的な誘惑に弱い人々に恵みを与えることを示しています。

I コリント 7:9 しかし、自分を抑制できなければ結婚しなさい。情欲に身を焦がすよりは、結婚した方がましだからです。

独身 OIC 聖徒の皆さん、牧師は日本でクリスチャンの伴侶を見つけるために特別に祈っています。これは本当に奇跡です。しかし、神は奇跡を起こされる方です。神はまた、「独身の賜物」を持つ者を召されます。

人生のうぬぼれた高慢 - あるいは、詳訳聖書では、「自分の資源や地上のものへの安定に対する確信」とあります。これは、「誰が神を必要とするのか。私は自分の力で、自分の富で成功できる！」という思いです。神が与えてくださった賜物、そして神が与え続けてくださる恩寵に基づいて成功する自分の能力に正直になることが、イエスにおける自信なのです。人生のうぬぼれの高慢ではありません。この違いに注目してください。使徒パウロは、コリント教会の「高慢な」クリスチャン指導者たちを正しています。

I コリント 4:7 あなたをほかの者たちよりも、優れた者としたのは、だれです。いった

いあなたの持っているもので、いただかなかったものがあるでしょうか。もしいただいたのなら、なぜいただかなかったような顔をして高ぶるのですか。

要点#1

イエスとともに聖なる道を歩むとは、世とその罪深い楽しみではなく、神を愛することを選ぶことです。ヨハネは、過去と未来におけるクリスチャンのアイデンティティを勧めました。ヨハネ 2:14 子供たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが御父を知っている (ginosko/ギリシャ語) からである。ginosko は、ギリシア語で知的または頭脳的な知識を意味する oida ではなく、経験によって知ることを強調していることを覚えておいてください。ですから、私たちがこの世の愛ではなく、神の愛のうちに歩むにつれて、神は私たちの中に、あなたが最初に生まれ変わったときよりも、よりよく、より親密に神を知るための、より大きな「霊的」な心を創造してくださるのです。私たちが神を愛するのは、最初の頃よりもずっと多くなったということではなく、神との体験を通して、私たちが期待したり想像したりした以上に、神が私たちが愛してくださっていることを知るのです！これによって、クリスチャンは自分自身ではなく、キリストに自信を持つようになります。私たちに對する神の愛を確信することで、私たちはイエスを通して神が与えてくださった賜物を自由に知ることができます。このことは、ミニストリーであれ、世俗的な召命であれ、イエスのためのすべての労苦において聖なる歩みをするために、私たちがイエスに近づけるのです。私たちの内にある父の愛は、短期的な快樂を求める世の誘惑の多くを押し流します。

世は過ぎ去る

この世の誘惑に負けることで得られる一時的な利益は、イエスとともに歩むことと比べて、次のように示されています。

I ヨハネ 2:17 世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。

来年、OIC で終末論 (時の終わりに関する聖書的研究) を含む神学の特別クラスが設けられることを祈っています。私は、手元のテキストが許す限り、説教の中にその一部を含めるようにしています。聖霊の助けを借りて、少し遠出する価値はあるでしょう。**牧師よ、なぜですか？** 私たちは誰でも、すぐに現在の世界に「満足しすぎたり、安住しすぎたり」してしまうからです。例えば、先週の日曜日、午前の礼拝の後に行われた OIC50 周年記念式典に参加した人々は、**詩篇 34.9 節**に書かれていることを体験しました！

詩編 34:9 味わい、見よ、主の恵み深さを。いかに幸いなことか、御もとに身を寄せる人は。

これは、素晴らしい料理と美味しい食べ物だけでなく、神の強い臨在の御霊によってイエスを糧とすることでもありました。私たちはまた、イエスの御霊が御自分の民との交わり

の中で与えてくださる慰めも与えられました。しかし、神は私たちにイエスにおいてこのような輝かしい経験を与えてくださり、決して終わることのないイエスとの最後の晚餐を待ち望むようにと、いつも私たちに気づかせてくださるのです：

小羊の結婚の晩餐-イエスとその花嫁である教会との結婚（黙示録 19. 7-9）

7 わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、花嫁は用意を整えた。8 花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。この麻の衣とは、聖なる者たちの正しい行いである。」9 それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」と言い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。

上記の「花嫁は用意を終えた」とは、イエスと使徒たち、特に今日のヨハネの手紙第一の教えに従うことである：

イエスと共に歩むとは、聖さの中を歩むことであり、イエスとの結婚の準備が整った教会、花嫁のことです。

これが私たちの輝かしい目標です！ しかし、「世は過ぎ去り、その欲望も過ぎ去ります；
I ヨハネ 2:17 世も世にある欲も、過ぎ去って行きます。しかし、神の御心を行う人は永遠に生き続けます。

まず、この世が過ぎ去る ことについて、神が物理的な世界、すなわち地球を滅ぼされることについて簡単に述べておきます。

II ペテロ 3:3~7 まず、次のことを知っていなさい。終わりの時には、欲望の赴くままに生活してあざける者たちが現れ、あざけて、4 こう言います。「主が来るという約束は、いったいどうなったのだ。父たちが死んでこのかた、世の中のことは、天地創造の初めから何一つ変わらないではないか。」5 彼らがそのように言うのは、次のことを認めようとしないからです。すなわち、天は大昔から存在し、地は神の言葉によって水を元として、また水によってできたのですが、6 当時の世界は、その水によって洪水に押し流されて滅んでしまいました。7 しかし、現在の天と地とは、火で滅ぼされるために、同じ御言葉によって取っておかれ、不信心な者たちが裁かれて滅ぼされる日まで、そのままにしておかれるのです。

Nova とは、ラテン語で「新しい星」を意味するラテン語です。ラテン語で「新しい星」を意味するこの言葉は、それまで肉眼では見えないほど薄暗かった星が、新星になると（太陽や月以外で）空で最も明るい天体になることがよくあるからだ。その明るさは通常、巨大なガス爆発を起こし、エネルギーを太陽系に放出します。これらは、天の川銀河と呼ばれる我々の銀河系でよく見られます。「天文学者は、天の川銀河では年間およそ 25 から 75 の新星が発生していると推定されています。

注：この説教では、私が真実と評価する科学を紹介しました。多くの科学者と呼ばれる人々は、創造主であり、地球の破壊者でもある神を指し示すという理由で、真実の科学を拒否

するからです。聖書は私たちの最終的な権威であるが、真の科学は終末の時代の出来事がいかに現実的であるかを示しています。

さて... 神が天と全宇宙を無から創造されたことを思い出しましょう。OICの聖徒の皆さん、私の豊かな想像力からの例えをお許してください：私は、イエスが持っているノートパソコンのキーに「Nova for the Sun」と書いてあると想像しています。イエスがいつそのボタンを押すかは、科学者ではなく神がすでに決めています。Novaは、(2ペテロ3章)の節に当てはまる物理的な出来事である可能性が高いが、神は爆発する太陽の有無にかかわらず、熱によって地球を溶かすことができます。世界の科学者たちはいつも、激変や地球破壊はすべて数百万年先に起こると繰り返していますが彼らを信じてはいけません！

第二に、この世が過ぎ去るということに関して、私たちクリスチャンを取り巻く邪悪な霊的世界も、私たちのために過ぎ去ります。しかし、それは失われた者のためではありません。このことは、(IIペテロ3・3)にあるように、終わりの日には、あざける者たちが現れ、あざけて、自分たちの欲望に従う。したがって、イエスと神が地球の破壊ボタンを押すまで、不信心な者たちは肉の欲、目の欲、人生の自慢に従うこととなります。しかし、イエスを信じる私たちにとって、使徒パウロは、最終的な贖い、つまり罪の存在と力からの救いについて、私たちが皆、主と対面するとき、はっきりと語っています。

Iテサロニケ 4:15~17 15 主の言葉に基づいて次のことを伝えます。主が来られる日まで生き残るわたしたちが、眠りについた人たちより先になることは、決してありません。16 すなわち、合図の号令がかかり、大天使の声が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます。すると、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、17 それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることとなります。

その栄光の日まで、私たちはこの誘惑と罪の世界にいます。そこで使徒ヨハネは、イエスと神を愛する心によって、自分の罪深い心に打ち勝つことを強調しています。(1ヨハネ 2.17)によれば、「世は過ぎ去り、その欲もまた過ぎ去る。」クリスチャンの内にある父なる神への愛は、彼らが定期的にイエスを追い求め、主を喜ばせるためにイエスの戒めに従うように導きます。

私は、使徒ヨハネがクリスチャンに神の御心を行うように指示していることの意味を、「イエスと共に歩み寄り、3つのことを言う」ことによって明らかにしようと試みました。

1. 光の中を歩むこと、つまり第1章2.2で罪を犯さないこと。
2. 2.2章から2.14章において、愛のうちに歩むこと、特に同胞であるクリスチャンを愛すること。
3. 罪深い楽しみではなく、神を願う心で歩む 2.15-25章

要点 #2

私たちが神の御言葉に従う理由は何でしょうか？「書いてあるからだ！」、「イエス様がこうなさいと言われたからだ！」。もちろん、これは極めて重要なことでしょう。私はいつも若い信者に聖書の箇所を暗記するように勧めている。ヨハネは2章のこの箇所で、イエスと親しく歩むことを強調しているからです。考えからだけでなく、心からです。もしそうでなければ、ヨハネはどのようにして「愛の使徒」と呼ばれることができたでしょう。ヨハネは私たちに、魂の感情や、悪に向かう自然な性質を指摘しているが、彼はまた、これらのことは、私たちの内に宿っている父の愛によって克服することができるかと教えています。これは、私たちに對する父の大いなる愛に対する確信です。

神と律法への愛

ルカ 10:24~28 24 言うておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞いたかったが、聞けなかったのである。」 25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、 27 彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

この手紙におけるヨハネの教えは、先程読んだイエスの質問に対する「弁護士」の返答の思想と神学に類似しています。その弁護士は律法（申命記 6.5）を引用し、イエスはそれを心から「アーメン」と言われました！第一の手紙を通して、ヨハネはクリスチャンたちに、イエスの教えは、心、魂、力、魂、そして心を尽くして神を愛すること、また、隣人〔キリストにある兄弟〕を自分のように愛することに全力を尽くすことが必要だと教えています。神は旧約聖書の信者に恵みを与えられました。これは、旧約聖書についての別の説教のための長いトピックです。しかし、イエスの血の犠牲によって、神の憐れみの座への扉が開かれ、すべての信者に聖霊の賜物が与えられるのです。聖霊は、私たちに對する神の変わることのない愛に私たちの目を開き続け、神への愛を新たにされます。聖霊は、私たちに對する神の変わることのない愛に私たちの目を開き続け、神への愛を新たにされます。信者は、神への恐れではなく、愛から神のみこころを行うことを学びます。つまり、非難を恐れるのではなく、敬虔に愛することです。このように、クリスチャンとは、**神のみこころを行い、永遠に生きる者**なのです（1ヨハネ 2.17）。

反キリストについて

ヨハネはここで、明らかに教会の常識となっていることについて話しています。（1ヨハネ 2.18）によれば、「子どもたちよ、今は終わりの時です。反キリストが来るということをあなたがたが聞いたように、今も多くの反キリストが現れています。」と書かれています。ヨハネの手紙が書かれた当時、使徒パウロがテサロニケ教会で「主の日はすでに始まって

いる」という噂を信じたことを正してから約 50 年が経っていました。また、主の日とは、聖書に出てくる多くの出来事、特に、生者も死者も含めたすべてのクリスチャンが天に召される「携挙（けいきょ）」を含む、一日以上の期間であることは間違いありません。さて、それから約 1800 年後、その時はどれほど遅くなるのでしょうか？偽の知らせは、携挙を逃したという噂を引き起こしました。そのため、テサロニケのクリスチャンたちは恐怖に襲われました。それでは、ヨハネが 1 世紀末の教会に同じような危険を警告したのを見る前に、西暦 50 年のパウロの訂正を読んでみましょう。

II テサロニケ 2:3~8 3 だれがどのような手段を用いても、だまされてはいけません。なぜなら、まず、神に対する反逆が起こり、不法の者、つまり、滅びの子が出現しなければならないからです。4 この者は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言するのです。5 まだわたしがあなたがたのもとにいたとき、これらのことを繰り返し語っていたのを思い出しませんか。（※これは上に引用したように、（1 テサロニケ 4. 15-17）における携挙のことでしょう。）6 今、彼を抑えているものがあることは、あなたがたも知っているとおりで、それは、定められた時に彼が現れるためなのです。7 不法の秘密の力は既に働いています。ただそれは、今のところ抑えている者が、取り除かれるまでのことです。8 その時が来ると、不法の者が現れますが、主イエスは彼を御自分の口から吐く息で殺し、来られるときの御姿の輝かしい光で滅ぼしてしまわれます。

テサロニケの信徒への手紙二章に登場する無法の人、ヨハネの手紙一章に登場する反キリストです。ブルース牧師、なぜ「無法の人」と「反キリスト」という 2 つの言葉があるのですか？パウロが無法の人について語ったという現実的な理由は明らかです。彼はこの世に物理的に存在し、人々が神と呼ぶあらゆるもの、あらゆる礼拝の対象に逆らうでしょう。「自分自身」を崇拝すること以外はすべてだ！」だから西暦 90 年、ヨハネはクリスチャンたちに、神はまだ無法の人が現れて礼拝を要求するために悪の抑制を解いていませんが、反キリストの霊が働いていると警告しています。パウロが何年も前に言っていたように、この無法は、多くの反キリストたちを通して、すでにひそかに働いているのです。これは、イエスの教会の迫害と破壊に焦点を合わせている多くのノンクリスチャンたちであり、今もそうです。この霊は、キリスト教に対抗し、世界中のすべての宗教を強めるでしょう。使徒ヨハネが（ルカ 9. 49-50）で語ったとき、イエスがこう言われたことを思い出してください。

ルカ 9:49~50 49 そこで、ヨハネが言った。「先生、お名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、わたしたちと一緒にあなたに従わないので、やめさせようと思いました。」50 イエスは言われた。「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである。」

キリスト教に本当に友好的な宗教は存在しないのです。

私たちは今、ヨハネの言葉から約 1800 年後の「終わりの時」にいます。： 18 子供たちよ、終わりの時が来ています。反キリストが来ると、あなたがたがかねて聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。これによって、終わりの時が来ていると分かります。(1 ヨハネ 2.18)。この対立は、日に日に明確になっている。そして携挙の後、反キリストは「不法の人」として現われ、イエスの教会に対する彼の戦いに協力した諸宗教の人々を含め、彼を崇拜しないすべての人々を殺害します。彼は、携挙後に改宗したクリスチャンを殺害するでしょう。これが、これらの「終わりの時」の出来事のいくつかについての私の簡単な解釈である。要点は、これらの明白な事実が、クリスチャンにイエスの再臨を見守るように促すべきだということです。

マタイ 24:42 だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。

私は、世界政府と一人の「不法の男」の指導者を指し示すいくつかの事柄に気づきました。イエスの教会は成長し続けているが、以前はキリスト教を歓迎していた国々でさえ、公然の迫害が増加しています。電子通信技術は、一人の指導者が支配するために、ほぼ完全につながっている。神は、超自然的な悪がテクノロジーを使って働くことを許すでしょう。私たちはすでに、携帯電話やインターネットでの私たちの選択の多くが、「私たちを守るため」に監視されているのを目にしています。そう、グーグルは私の天気予報サイトにある卑猥な広告を削除してくれます。しかし、そのコントロールは私のものではありません。次に、ヨハネは反キリストの人物に対する教会の個人的な経験について書いています。

I ヨハネ 2:19 彼らはわたしたちから去って行きましたが、もともと仲間ではなかったのです。仲間なら、わたしたちのもとにとどまっていたでしょう。しかし去って行き、だれもわたしたちの仲間ではないことが明らかになりました。

日本でさえ、人々が礼拝する場所を選ぶのに十分な教会があります。西暦 90 年にヨハネが書き送った教会ではそうではありませんでした。今日、基本的な福音主義信仰に関する教義上の疑問のためにクリスチャンが退場するなら、それは今でも多くの反キリストが出現していることを示しているのかもしれない。

I ヨハネ 2:20~21 20 しかし、あなたがたは聖なる方から油を注がれているので、皆、真理を知っています。 21 わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知り、また、すべて偽りは真理から生じないことを知っているからです。

ヨハネは、交わりにとどまった 1 世紀のクリスチャンたちが真理を知っていると確信していました。当時も今も、反キリストたちは、一部のクリスチャン、つまり、真理と嘘を見分ける聖霊の導きに敏感でないクリスチャンをだますような福音に手を加えているのです。ヨハネは、自分が信頼していた教会に、彼らがすでに知っていたことを思い出させたので

す。これは今日でも、教会のすべての指導者の仕事の一部です。

次の箇所、ヨハネの第一の手紙全体における焦点を見ることができます。ヨハネは、偽キリストたちによって宣べ伝えられているグノーシス主義を暴露するために書いたのです。これは、反キリストたちによって、より頻繁に行われていた異端であったと思われます。

I ヨハネ 2:22~23 22 偽り者とは、イエスがメシアであることを否定する者でなくて、だれでありましょう。御父と御子を認めない者、これこそ反キリストです。 23 御子を認めない者はだれも、御父に結ばれていません。御子を公に言い表す者は、御父にも結ばれています。

クリスチャンを名乗るグノーシス主義者たちは、イエスが肉体を持って来られ、しかも神と同等であることを否定していました。ヨハネは、肉となって来られた御子イエス・キリストを告白することなしには、誰も父なる神といかなる関係も結べないことを明確にしています。次の箇所を読んでみましょう。

I ヨハネ 2:24 初めから聞いていたことを、心にとどめなさい。初めから聞いていたことが、あなたがたの内にいつもあるならば、あなたがたも御子の内に、また御父の内にいつもいるでしょう。

ヨハネは諸教会に、クリスチャン生活の初めから聞いていたイエスの福音に何も付け加えないように言っているのです。異端や異端信者は、真のクリスチャンを霊的に「神経質」にさせます。異端に対抗するために、何か新しい教えが必要だと感じるかもしれません。真理と誤りを見分けることは良いことだが、クリスチャンはすでにイエスとともにいます！そして、父なる神がおられるのです。これは打ち負かすことのできない組み合わせです！

I ヨハネ 1:3 わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。

コロサイ 3:16 キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、論し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。

神は、キリストの言葉をクリスチャンの心に住まわせるために、ご自身の聖霊をクリスチャンにお与えになりました。クリスチャンの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです (1 ヨハネ 1・3)。

1 ヨハネ 2.20 しかし、あなたがたは聖なる方から油を注がれて {あるいは、免除されて}

いる。

また、私たちクリスチャンは、あらゆる知恵をもって、詩篇や賛美歌や霊的な歌をもって互いに教え、戒め合っているのです。教会が攻撃されようとも、神は私たちに必要なものをすべてキリストのうちに与えてくださったからです。物事が複雑になりすぎると……。私は何年も前に聞いたシンプルな表現が好きです。あるクリスチャン歌手がテレビで話していた：「信頼することは信じること。」

主ご自身が私たちに与えた約束。

私はここで一つの物語をお伝えします。西暦 27 年のエルサレム。ヨハネはベテスダの池にいました。イエスは、神が御使いを遣わして水をかき混ぜ、池に入ることができないほど弱っていた人を癒したところでした。その日は安息日だったので、ユダヤ人たちはイエスを迫害し始めました。彼らは、イエスが安息日にこの「業」を行うべきではないと言いました。イエスは自らを神の子と呼び、さらにユダヤ人たちを扇動した後、父なる神から人の永遠の運命を裁く権利を与えられているとも主張したのです。

ヨハネ 5:22~24 22 また、父はだれをも裁かず、裁きは一切子に任せておられる。 23 すべての人が、父を敬うように、子をも敬うようになるためである。子を敬わない者は、子をお遣わしになった父をも敬わない。 24 はっきり言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。

第一ヨハネ 2.24 には、御子と御父のうちにとどまることについての記述があるが、これは（ヨハネ 5.22-24）を反映、あるいは並行しています。ヨハネが福音書を思い出しながら手紙を書いたとき、ベテスダの池の奇跡が彼の記憶の中で鮮やかにフラッシュバックしたのでしょうか。しかし、ヨハネの最大の奇跡は、彼がこの新しいメシア、イエスに帰属し、イエスが神であり、全人類を裁く権利を持っていると主張する中で、安心感を覚えたことでした。ヨハネは次のように書いているからです。

I ヨハネ 2・25 これこそ、御子がわたしたちに約束された約束、永遠の命です。

REFERENCES

BECK - The Holy Bible, An American Translation, 1976, by William F. Beck. Lake Printing Company, Osage Beach, Missouri USA

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995 by The Lockman Foundation. All rights reserved.